
バカとFateと召喚獣

ヨッキー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バカとFateと召喚獣

【Nコード】

N5860Z

【作者名】

ヨッキー

【あらすじ】

もし文月学園にFate/stay nightのキャラがいたらという作品です。

Fate側のメインキャラは士郎とセイバーと凜、バカテスはいインキャラは原作と変わらない予定です。

若干キャラの性格が変わっているかもしれませんがご了承ください。

処女作なので文などがおかしかったりするのでそういうところはどうか御指摘ください、またアドバイスなどもお願いします。

プロローグ（前書き）

はじめましてヨッキーです。変なところなどがあると思いますがどうか暖かい目で見守ってください。

プロローグ

雲が少しだけ浮かぶ青空。

満開に咲き誇る桃色一列の桜並木。

道行く人は皆希望に胸を膨らませる。

そんな青空も、そんな桜並木も目の端に追いやり希望に胸を膨らませることもなくただ三人は走っている。

そんなとき突然、黒髪のツインテールを激しく揺らしながら走っている少女　遠坂凜は叫ぶ。

「なんでこうこうなったのよ！」

その叫びに金髪を後ろで結んでいてアホ毛が特徴的な少女　アルトリア・S・ペンドラゴンが答える。　ア

「凜がギリギリまで寝ていたからじゃないんですか！」

「セイバーもギリギリまでご飯食べてたじゃない！」

「いや凜が　」

「いやセイバーが　」

二人の口論は次第に激化してゆく。その口論に挟まれている、朱色の髪をした少年　衛宮士郎は耳をふさぎながらも懸命に走っている。

だがその少年もやがて痺れを切らしたのか、

「遠坂もセイバーも喧嘩しながら走しらないでくれ……」と、ため息をつくようにつぶやいた。

この三人が向かっているのは文月学園。文月学園とは、科学とオカルトと偶然によって生まれた『試験召喚システム』により召還者をデフォルメした姿の『召喚獣』を学力低下の対策としているの進学校ことである。

そしてここ 文月学園が今回の物語の舞台である

プロローグ（後書き）

これからよろしく願います。

また、アドバイスなどをいただけると幸いです。

第一話 クラス発表（前書き）

第一話目です。よろしくお願いします。

第一話 クラス発表

士郎は走りながらも振り分け試験のことを考えていた。

1年の最後にあつた振り分け試験最中、具合が悪くなつて途中退場した生徒が無得点扱いになることを抗議していた友人 吉井明久がいた。

その近くには桃色の髪の少女がとても熱っぽい赤みがかった顔をしていたのでそのこのためだと思った。

もともと、困っている人などをどうしても放つて置けない士郎だ、そのやり取りをただ見ていることはできなかった。

結局、自分&明久VS試験監督の先生の口論は激しくなつていった、それを見るに見かねた遠坂がその口論の仲裁に入つた結果なんとかその口論は終わることができた。

だが、テストの最中に話せば無得点になるのは确实のため自分と明久の無得点は納得がいく。

しかし、止めに入つた遠坂までもが無得点扱いなの納得がいかなかった。

これに抗議しにいくとしたところ遠坂本人が「別にいいわよ」といいながら止めてきたのでしぶしぶ行くのをやめた。

そのあと、テスト中にうるさくしてしまった為、明久と一緒に同じ教室で振り分け試験を受けていたやつらにものすごく文句を言われたのは余談である。

「校門が見えてきたわよ！」その声に物思いにふけていた土郎の意識は戻された。

「お前たち遅刻だぞ！」声だけでもアイテの大きさが想像できてしまう声が三人にふりかかる。

声のするほうに目を向ければ浅黒い肌に黒髪の短髪、鍛え上げられた筋肉を持つ大男　西村　宗一またの名を鉄人がいた。

「おやようございます西村先生」先ほどまでとはまるで違う優等生オーラを身に纏った凜が挨拶をした。

「おはようございます西村先生」凜に続くように土郎も挨拶をする。

「おやようございますテツジン」セイバーも続いて挨拶をするが、『テツジン』という一言により西村先生は眉をひそめる。

「俺を毎回堂々と『鉄人』と呼ぶのはお前だけだぞセイバー……」とつぶやいたが西村先生は一回咳払いをすると、

「それよりお前らこれを受け取れ」といいながら三つの封筒を手渡してきた。

「衛宮、お前は困っているやつとかを放っておけない優しいやつなのはわかってる。だけど自分も大切にしろよ」突然の西村先生の言葉に土郎は弱弱しく返事をした。さらに西村先生は続けて、

「すまん遠坂、お前の無得点を取り消してやれなくて……」とすまなそうに言う。

「いえ、西村先生お気持ちだけでうれいすよ」と凜は笑顔で返す。それに西村先生も苦笑。

どこか優しい気持ちに包まれている西村先生と土郎と凜に対し、「テツジン私には何か無いのですか？」と不服そうにたずねると、「食ってないで少しでも勉強しろ……」と悲しい返答が返ってくる。

土郎と凜の笑い声が聞こえる、

「な！ 二人とも笑わないで下さい！」とセイバーが赤顔をしながら叫ぶ。

「まー、お前ら一年間がんばれよ……………」

Fクラス

で

このときから2年Fクラスを中心とした、文月学園のバカ騒ぎが始まったのである。

第一話 クラス発表（後書き）

週に1〜2回多いときは3回くらいの投稿ペースでいきたいと思います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5860z/>

バカとFateと召喚獣

2011年12月20日22時56分発行